



トークセッションには藻谷さん、小林中標津町長、徳永会長が参加

和歌山大学観光学部教授も参加

てしかが観光塾 てしかがえこまち推進協議会

冒頭、主催者であり塾長の徳永会長からの激励の言葉に続き、基調講演では「大地の芸術祭」など芸術による地域づくりで活躍される北川フラム氏が「観光と芸術による町づくり」と題して講演しました。続いて副塾長の山田桂郎さんは「日本の観光の現状」として、先例などを紹介しながら、日本の観光は「数」ではなく「収益」を目指すべきであると話しました。

2日目は「スイスにみる観光の本質」と題し、観光ランキング上位のスイスでの観光の仕組みについて、詳しく解説しました。午後からは、特別公開セミナーとして、話題の文庫本「デフレの正体」の著者で、㈱日本政策投資銀行地域振興グループ参事役の藻谷浩介さんが「景気の波ではなく人口の波が動かす日本経済」観光関係者はどう対処していくのか」といったテーマで、日本の人口減少や弟子屈町の人口減少の実態をデータで示しながら、地域ブランドのある観光地への道筋などを提言しました。

続いて「観光町づくりと地域戦略のあり方」と題したトークセッションが行われ、一般参加も

てしかがえこまち推進協議会(会長・徳永町長)が主催する「平成22年度てしかが観光塾」が、11月12日～14日の3日間の日程で開かれました。川湯ふるさと館で行われた同塾は、昨年の継続事業として開かれたものです。観光にかかわる関係者の連携や地域の観光をマネジメントできるキーマンの育成を目指したもので、各地で活躍されている講師からレクチャーを受けました。

開講式は12日に開かれ、遠くは和歌山県など全国各地から応募した観光振興や観光まちづくりに興味が高い32人が参加しました。

観光人材育成に全国から32人

冒頭、主催者であり塾長の徳永会長からの激励の言葉に続き、基調講演では「大地の芸術祭」など芸術による地域づくりで活躍される北川フラム氏が「観光と芸術による町づくり」と題して講演しました。続いて副塾長の山田桂郎さんは「日本の観光の現状」として、先例などを紹介しながら、日本の観光は「数」ではなく「収益」を目指すべきであると話しました。

2日目は「スイスにみる観光の本質」と題し、観光ランキング上位のスイスでの観光の仕組みについて、詳しく解説しました。午後からは、特別公開セミナーとして、話題の文庫本「デフレの正体」の著者で、㈱日本政策投資銀行地域振興グループ参事役の藻谷浩介さんが「景気の波ではなく人口の波が動かす日本経済」観光関係者はどう対処していくのか」といったテーマで、日本の人口減少や弟子屈町の人口減少の実態をデータで示しながら、地域ブランドのある観光地への道筋などを提言しました。

続いて「観光町づくりと地域戦略のあり方」と題したトークセッションが行われ、一般参加も



藻谷浩介さん

「観光塾も第1回のカリスマ塾から3回目となる。来年も継続して開催したい」と話し、来年の開催を約束して閉講しました。

加わり約60人が講師らの意見に耳を傾けました。セッションには、山田さんをファシリテーターとして、徳永会長、小林実中標津町長、藻谷さんの3人がパネラーとして参加しました。徳永会長が「えこまち推進協議会の取り組みを通じて、町全体を良くしていきたい。中標津町との多岐にわたる連携が必須」と述べたのを受け、小林町長も「空港を持つ町として、弟子屈町とはぜひとも連携し、取り組んでいきたい」と心えました。藻谷さんは「川湯温泉の景観が大切。自然景観も大切だが、屋外広告や看板に気を遣ってほしい」と指摘しました。

3日目はグループに分かれてワークショップが行われ、グループごとに「地域の戦略づくり」に取り組みました。

塾を主催した徳永会長は「観光塾も第1回のカリスマ塾から3回目となる。来年も継続して開催したい」と話し、来年の開催を約束して閉講しました。

弟子屈高校で3度目の観光講演会

ただ単にたくさん来ればよいというものではない

鳥取県境港市を例に「観光地は、ただ単にたくさん人が来ればよいというものではない」と強調しました。その上で「観光客にはデイズニランドのような『非日常』よりも、ライフスタイルが違う『異日常性』が共感を呼ぶ」と話しました。

また、山田さんは首都圏な

弟子屈高校(鈴木晃校長は11月15日、総合的な学習の一環として3回目となる観光講座を開講しました。

町の観光まちづくりアドバイザーである山田桂郎さんが講師を務め、前回に引き続き観光にかかわる地域の魅力について話しました。

観光講座は3年生を対象としたカリキュラムで、約60人が受講しました。

講演のテーマは「弟子屈町の観光について」です。講師の山田さんは冒頭「ゲゲの女房」で躍觀光名所となり、入り込み数が数倍に膨れ上がったにもかかわらず、大事な収益を失わず、大事な収益は逆に下がってしまったという鳥取県境港市を例に「観光地は、ただ単にたくさん人が来ればよいというものではない」と強調しました。その上で「観光客にはデイズニランドのような『非日常』よりも、ライフスタイルが違う『異日常性』が共感を呼ぶ」と話しました。

また、山田さんは首都圏な

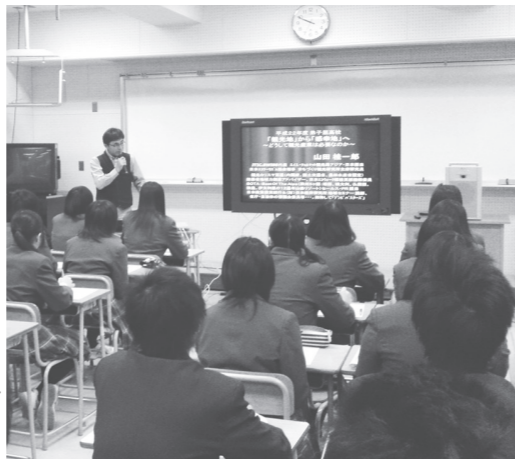
最後は山田さんは、生徒の皆さんに対し「これから進学や就職で町外で暮らす方も多いと思いますが、そこで初めて弟子屈の良さを実感すると思います。新しい土地では周りの皆さんへ遊びに行くのであれば、ぜひ弟子屈町へ」と言ってお話してくださいと話し、年度内の再会を約束して講演を終了しました。

終了後、鈴木校長と話した山田さんは「生徒全員が真面目にしっかりと聞いてくれていた。今後、何か一緒に取り組んでいければ」と、3月にも具体的な取り組みを行いたいと提案していました。

どの人口減少の実態や高齢化などについて、弟子屈町と比較するなどして解説し、都会ほど危機感が強いと話しました。さらに、同校で総合的な学習の時間で作っているホームページについてもアドバイスを送りました。

最後は山田さんは、生徒の皆さんに対し「これから進学や就職で町外で暮らす方も多いと思いますが、そこで初めて弟子屈の良さを実感すると思います。新しい土地では周りの皆さんへ遊びに行くのであれば、ぜひ弟子屈町へ」と言ってお話してくださいと話し、年度内の再会を約束して講演を終了しました。

終了後、鈴木校長と話した山田さんは「生徒全員が真面目にしっかりと聞いてくれていた。今後、何か一緒に取り組んでいければ」と、3月にも具体的な取り組みを行いたいと提案していました。



高校生を前に講演を行う山田さん

※ファンリテーター…参加者の心の動きや状況を見ながら実際にプログラムを進行していく人

2011年7月オープン！新「道の駅」 物販施設の利用希望者を募集します

2011年7月のオープンを目指し、旧欧羅巴民藝館跡地に新しい「道の駅」の整備を進めています。新しい「道の駅」の物販施設を利用し、弟子屈町の特産品販売を希望する方を募集します。

▶募集内容

- ①町内で生産されたものや地場産の原料を使用した商品を販売したい方。
- ②町内で野菜などの生産をしている方で、新しい「道の駅」で販売したい方。
- ③町内で採れた山菜や、趣味で作った野菜を販売してみたい方。
- ④趣味やサークル活動で作成・生産した商品を販売したい方。

▶募集資格

- ①町内にお住まいの方。(個人・グループ)
- ②町内に事務所などを設置している法人。
- ③販売に際し、必要な許可や免許などを有すること。
- ④町税を滞納していないこと。
- ⑤公共の安全や福祉を脅かす恐れのある団体に属していないこと。

▶運営組織/運営についての詳細は今後、協議しながら決定します。

▶申請方法/1月11日(火)～1月21日(金)(土・日曜日を除く)の8時45分～17時30分に「出陳申込書(観光商工課にあります)」と「納税証明書」「許可証や免許証など(必要な場合)」を提出してください。

▶その他

※物販施設以外に、屋外(テントスペース)で自由に野菜などの販売ができるような体制を予定しています。
※希望者の方を対象に後日、説明会を開催します。

申請・問い合わせ先/役場観光商工課 ☎482-2940 (課直通)

今年も「SL冬の湿原号」がやって来る!

川湯温泉駅までの延長運行は、1月22日(土)・23日(日)

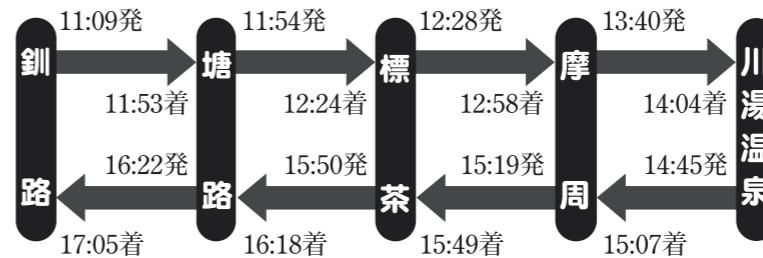
ひがし北海道の風物詩となっている「SL冬の湿原号」が今年も摩周駅・川湯温泉駅にやって来ます。

2000年1月から運行されている冬の湿原号は、雪原の中を走る勇姿に魅了された鉄道ファンのみならず、観光客や地元の人々を毎年楽しませています。冬の湿原号の魅力は姿・形だけではなく、煙のにおいや車窓からの風景を楽しんだり、ダルマストーブを囲みながら珍味に舌鼓など、まさに「五感で楽しむ!」という言葉がぴったりです。皆さんもこの機会にSL乗車を体験してみたいかがですか?

運行期間

- 釧路駅～川湯温泉駅/1月22日(土)・23日(日)
- 釧路駅～標茶駅/1月29日(土)～3月6日(日)

SL冬の湿原号運行時刻 ※川湯温泉駅延長運転時



<列車運行・時刻等問い合わせ先> JR摩周駅 ☎482-2030 URL <http://www.jrkushiro.jp/>

町民限定 わくわく体験

JR北海道の協力により、町民の皆さんにSL乗車体験の特別企画を行います。ぜひこの機会に懐かしく、そして新しいSLにご乗車ください。

- 体験試乗日/1月22日(土)
- 乗車区間/摩周駅～川湯温泉駅間の往復
- 料金/中学生以上 1,940円
小学生 960円
未就学児童 無料
(座席が必要な場合は960円)
- 定員/30人(先着順)
- 申込期間/1月6日(木)～7日(金) 9時～17時

※受け付け時に乗車される方の「住所・氏名・電話番号」を確認し、詳細は後日ご連絡します。

□申し込み・問い合わせ先/役場観光商工課観光係 ☎482-2940 (課直通) まで。